

風力発電は、 自然エネルギーでは ありません。



国連は

地球温暖化の原因は二酸化炭素（CO₂）の増加なので、各国が削減目標を立てて、それに向かって努力しなければいけないと言っています。

火力発電はCO₂を大量に排出するので、それに代わる、エコで持続可能な自然エネルギーとして、太陽光や風力が脚光を浴びてきたわけです。

しかし、それらを設置するために大量の森林伐採が行われたり、土砂災害が起きたり、自然の生態系が破壊されたり、北海道の大自然が切り刻まれて、今、悲鳴を上げています。一方で、

国連の専門機関（ICPP）では、

二酸化炭素（CO₂）排出の最大の原因は森林伐採だと言っています。

森林は、二酸化炭素（CO₂）を吸収し、酸素を輩出してくれる最大の二酸化炭素（CO₂）吸収機関であるからです。

もともと、緑がなく人里離れたところに建てるのならいざ知らず、「本州にはそういう場所が無くなった」（12月9日：大江町の説明会での関西電力の応答）と言って、関西電力が、北海道まで出てきて、しかも仁木の国有林であり、保安林の山々を伐採して風車を立てるとするのは、どう考えてもエコでもSDGsでもありません。

（公益財団法人）日本自然保護協会では

「このような自然環境面で重要な森林を広範囲に開発する行為は、自然環境保全上、行ふべきでなく、そもそも本地域に建設を計画した事業者の見識が問われる」と、厳しく関西電力を批判しています。

各団体における関西電力に対する意見

今回仁木周辺の事業のほぼ全域が自然度9ないし10。それは日本でも、20%にも満たない国有林・保安林の貴重な自然帯だ。

環境大臣の説く「再エネ促進区域」には程遠い、全く該当しないのは、誰の目にも明らかだ。

→ウラに続く

低周波や超低周波がもたらす健康被害

さらに、風力発電は、風力発電では避けられない低周波や超低周波が、付近の住民に健康被害をもたらすことも数多く知られるようになりました。

これって石狩市風力発電の被害かも？

2019年夏ごろから、ゆっくりとしためまいがおこり、吐き気、頭痛などがして、引越さなきゃ治らないと思っている。

(新港工業団地付近の住宅に住む方)



2019年12月～翌年3月の冬季間、頭痛がして寝込むことも多かった。その間、風力発電の騒音測定に協力しており、その影響があったと思う。今は新港工業団地に近づかないようにしているから、体調は昨年より良くなった。(女性の方)

風車の羽根が支柱と重なる時、圧縮された空気が断裂して、後方に発生する交互した空気の渦

カルマン渦
(超低周波音)



放水路の風力発電1500kwと1650kw2基の近くでも、高血圧や目まいなど、風車の影響と思われる症状の方が働いていた事業所の例があります。
また、ここから300mの距離の住宅には、明らかな風車病発症の方がおられましたが、転居されました。

ロッカー室に行くと、めまいがする。共鳴現象がおきているのかもしれない。

(新港工業団地の事業所に勤務する方)



*風車によって生ずるカルマン渦を可視化した動画です。

Flow Visualization on a Utility-scale Wind Turbine Using Natural Snowfalls

右のQRコードを読み取ると、「石狩湾岸の風力発電を考える石狩市民の会」のHPにいけます。HP上部のリンクボタンを押すと画面が変わり、国内外の情報・講演会のタイトルが表示されます。ドイツ放送の映像(30分)では風車の問題点が明らかになります。医学的にはペレイラ博士の映像(60分)が Good！
パソコンを利用の方は、マークをクリックすると日本語字幕が選択できます。

